

2020年10月14日
プライム ライフ テクノロジーズ株式会社
トヨタホーム株式会社
パナソニック ホームズ株式会社
ミサワホーム株式会社

プライム ライフ テクノロジーズグループの街づくり第1弾 大型分譲地「MIYOSHI MIRAITO」が街びらき

- パナソニックやトヨタ自動車と連携した住宅用アイテム2点をグループ3社で共通部材化
- スマート防災センターを核にしたコミュニティ ZEH の街並みが完成

プライム ライフ テクノロジーズ株式会社（東京都港区、代表取締役社長：北野亮／以下、PLT）は、「くらしの“あたりまえ”をかえていく」というコーポレートメッセージを掲げ、未来志向の街づくりを実現するため、会社設立以降、グループ各社と連携した取り組みを進めてきました。街はランドスケープ、住宅や建設、モビリティ、設備デバイス、タウンサービスと大きく五つの要素（レイヤー）で構成されていると考え、PLT グループは、このレイヤーごとに「あたりまえ」をかえていくことで、一歩先をいく暮らしを実現していきます。

この度、PLT 設立後初めてとなる共同分譲「^{みよし} ^{みらいと}「MIYOSHI MIRAITO」が街びらきを迎えます。愛知県みよし市の愛知大学名古屋キャンパス跡地に「テクノロジーの力をちょっと借りてスマートに森と暮らす」をコンセプトとし、自然と先進性を融合した街づくりを目指します。当分譲地は、トヨタホーム株式会社（名古屋市東区、取締役社長：後藤裕司）が中心となって計画した総区画数 288 区画の大型戸建て分譲地で、街全体の約 3 割を森林として残し、既存の樹木の保全や生物多様性の創出など、自然と共生する豊かな暮らしを実現する一方、災害時は街の中心に置いたコミュニティハウスが一定期間エネルギーを自給できる防災拠点となり、周囲の戸建てと連携してコミュニティ ZEH を形成する「いつもともしも（災害時）」の暮らしやすさが両立する街です。

また、住宅内には近年激甚化する自然災害やコロナ禍による住まいの役割の変化に対応し、トヨタ自動車と連携した業界初^{*1}の非常時給電システム「クルマ de 給電」と、パナソニックの微粒子イオンの技術を活用した天井埋込形ナノイーX^{*2}発生機「エアイーX」の2アイテムを採用しています。PLT グループは、ハウスメーカー3社間で共有するアイテムを、“ヒカリモノ^{*3}”と位置付け、順次展開していきます。

PLT グループは、今後もお客様のより良い暮らしと未来の実現のため、グループのシナジーを創出し、くらしの“あたりまえ”をかえる街づくりを進めていきます。



シンボルツリーを囲む「MIYOSHI MIRAITO」の街並み

※1：トヨタホーム調べ（2020年8月）

※2：「ナノイーX」はパナソニック株式会社の商標です。

「ナノイー」「ナノイーX」の詳細はこちらをご覧ください。URL：<https://panasonic.jp/nanoe/about.html>

※3：今後 PLT グループとしての強みになりうる、各社の特に優れた技術や商品のこと。

《PLT の街づくりについて》

まちを以下の五つのレイヤーに分け、それぞれのレイヤーの中で安全・安心でより良い暮らしを実現するために、「暮らしの“あたりまえ”をかえていく」をコンセプトにまちづくりに取り組んでいきます。

	タウンサービス	まちの維持管理や、人と社会をつなぐ暮らしのサービス
	設備デバイス	暮らしを支える住宅／建設設備や家電など
	モビリティ	暮らしに不可欠な人や物の移動のアシスト
	住宅・建設	暮らしのベースとなる住宅や建築物
	ランドスケープ	自然と共生する街区環境
(イメージ画像)	(名称)	(レイヤーの内容)

概念図

《街並みの特徴》

■自然と共生する街（ランドスケープ レイヤー）

「MIYOSHI MIRAITO」は、住民同士のコミュニケーションや自然を楽しむ場として、街区の中にコンセプトの異なる三つの公園との三つの森を配置しています。

また、当分譲地は街全体の約3割を森林が占め、既存樹木の保全や生物多様性の創出など、自然と共生する街づくりが評価され、愛知県の戸建て分譲地として初めて「いきもの共生事業所認証（ABINC 認証）※」を取得しました。

※一般社団法人いきもの共生事業推進協議会が2013年に創設し、企業における生物多様性に配慮した取り組みを認証する制度です。



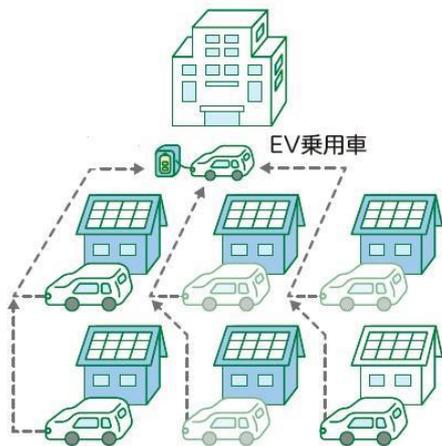
「安らぎの森」のヒーリングデッキ



約 1500 m²の広さの「わんぱく広場」

■スマート防災センターを中核にしたコミュニティZEH（タウンサービス レイヤー）

「MIYOSHI MIRAITO」は、いつもともしもの暮らしやすさを両立します。スマート防災センター「MORIZONO HOUSE」は、平時は料理教室やパーティーを楽しめるコミュニティスペースとして住民の皆様の交流に活用します。災害時には、V2Hや防災水槽、「プリウス」の使用済み車載バッテリーを再利用した「スマートグリーンバッテリー」、防災備蓄庫などを装備しているため、一定期間エネルギーが自給できる自立型防災センターとして活躍します。また、一部の街区においてZEH+性能を有する住宅各戸とEVで電力融通できる仕組みを構築し、政府の「コミュニティZEHによるレジリエンス強化事業」に認定されました。



コミュニティZEHのイメージ



「MORIZONO HOUSE」

《住戸の特徴》

■3社が展開する調和のとれた多様な住宅（住宅・建設 レイヤー）

建物と外構のガイドラインを設け、各社の個性を生かした多様な住宅でありながらも、調和のとれた街並みを実現しています。また、すべての住戸が環境配慮、防災・減災を意識しており、太陽光発電システムやHEMS（ホーム・エネルギー・マネジメント・システム）、非常時給電システムを標準装備したZEH(ニアリーZEH含む)仕様の住宅としています。

■PLT初の共通部材を搭載（設備デバイス レイヤー）

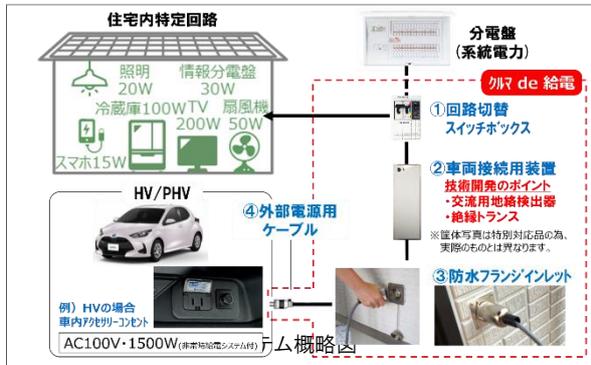
①「エアイーX」（臭気低減）

近年の働き方改革の広がりやコロナ禍における環境の変化で、家で過ごす時間が増加し、住宅に求める快適性への需要が高まっています。パナソニックが開発した天井埋込形ナノイーX発生機「エアイーX」は、微粒子イオンの働きでタバコ臭やペット臭、体臭などの気になる生活臭を除去し、より快適な室内環境を実現します。



② 業界初の非常時給電システム「クルマ de 給電」

トヨタホームが開発した業界初の非常時給電システムです。安全性の要となる車両接続用装置を開発し住宅側に設置。停電の際にはHV・PHVに搭載されたAC100V・1500W アクセサリーコンセントから直接、住宅内特定回路がカバーする冷蔵庫や照明、扇風機、スマホ充電といった生活に最低限必要な家電類へ電力供給できます。在宅避難がしやすくなるなど、防災・減災がより身近なものとなります。



外部電源を車両対応、V2Hガイドライン相当(車両接続用装置)にて安全性確保

